

◇◇◇◇◇ 編集後記 ◇◇◇◇◇

昨年度本会大会で、国立歴史民俗博物館助教授の新井勝紘氏に講演をお願いした。その時氏は、町田市自由民権資料館以来の歴史に対する熱意あふれる取組みや国立歴史民俗博物館での御苦労について話されたが、それには我々はあらためて歴史研究、「地域史運動」の大きな可能性と、難しさを痛感させられた。

新井氏は本会創立以来の会員でもある。本会には、新井氏をはじめ、独自の歴史研究や地域史運動を推し進めておられる多くの会員、非会員の方々の暖かい目がある。そういった方々の話を聞きたい。その中から、またその方々との対話の中から、我々の研究・運動をあらためて見直していきたい。その思いが、この市民講座「激動の現代、歴史をどう学ぶか」の実施につながったといえる。「激動の現代」に目を向けることなく、「科学」として歴史研究を進めることは不可能であるからだ。

すなわちこれは市民講座であるとともに、講演いただいた先生方の実践を、自分たちがどう受けとめられるのか、また自分たち自らの成果をどう伝えられるか。我々自身が試される企画でもあった。本『年報』の報告は、そのまとめである。これらを我々の活動にどう活かしていけるかがこれからの最大の課題であろう。

それと同じ意味で、常連メンバー以外の方にもどんどん研究や運動の成果を発表していただく、本号の編集意図もここにある。その意味から今回、新井勝紘氏および法政大学第二高等学校教諭、渡辺賢二氏の寄稿が得られたことは、編集子にとって何よりも喜びである。(特に新井氏の論稿は、氏と同じく博物館建設準備に携わり、それも近現代を担当する編集子には、大きな激励であり叱咤であった。)今後も多くの方々に寄稿をお願いしていくつもりであることを記して末文としたい。

(植山 淳)

京浜歴科研年報 第七号

発行日 一九九三年一月三十一日

編集・発行

京浜歴史科学研究会

〒233 横浜市港南区港南台二一―一九―四〇七

奥田晴樹方 ☎〇四五―八三二―一五二七七

(郵便振替口座 横浜七一―一五五三五)

印刷 合資会社 横浜大気堂

横浜市中区真砂町四―四〇